

3 現代芸術の国際展部会（事務局：横浜市）

本部会は、国内各地で開催されている現代芸術の国際展に携わる自治体や団体の職員が課題やノウハウを共有することにより各国際展の発展的な継続開催を目指し、さらには各開催都市の創造都市政策のさらなる実現へとつなげていく目的である。

今回は、企画段階時に部会員に対し取り扱ってほしいテーマ（課題や関心事等）のアンケートを実施、その結果を基にテーマに適した自治体が話題提供し、参加者同士が意見交換やノウハウの共有等を行った。

開催日時	令和4（2022）年11月14日（月）、15日（火）
会場	ルネスホール（金庫棟ワークルーム） ほか オンライン（Zoom）
主催	岡山市
共催	文化庁、創造都市ネットワーク日本（CCNJ）
事務局	横浜市
参加人数	担当者ミーティング 27名（現地24名、オンライン3名） エクスカッション （1日目25名、2日目21名）
参加自治体・団体数	12自治体・団体
次第	▽11月14日（月） □開会挨拶 ・岩田修氏（岡山市市民生活局スポーツ文化部 部長） ・濱田泰栄氏（文化庁地域文化創生本部暮らしの文化・アートグループ リーダー） □事例紹介／ディスカッション ・テーマ①地域への浸透に向けた取組など（岡山芸術交流の取組から） ・テーマ②運営組織の構築・関係者間のコミュニケーションなど（瀬戸内国際芸術祭の取組から） ・テーマ③継続的な作品維持管理など（UBEビエンナーレの取組から） □講評 ・佐々木雅幸氏（CCNJ 顧問／文化庁文化創造アナリスト／金沢星稜大学 特任教授／学校法人稲置学園 理事） □エクスカッション 岡山芸術交流展示作品鑑賞 ・岡山城内設置作品 ▽11月15日（火） □エクスカッション 岡山芸術交流展示作品鑑賞 ・旧内山下小学校 ※対話型鑑賞 ・天神山文化プラザ ※自由鑑賞 ・オリエント美術館 ※自由鑑賞

【全体概要】

□岡山市及び文化庁から開会挨拶、岡山市より岡山芸術交流の取組から①「地域への浸透に向けた取組など」、香川県より瀬戸内国際芸術祭の取組から②「運営組織の構築・

関係者間のコミュニケーションなど」、宇部市よりUBEビエンナーレの取組から③「継続的な作品維持管理など」の話題提供後、毎ディスカッションを行った。
□担当者ミーティング閉会后、岡山芸術交流展示作品（夜間のみ鑑賞可）を鑑賞し、2日目は、岡山芸術交流主要施設の展示作品を「対話型鑑賞形式」にて視察した。

【担当者ミーティング概略】

1. ディスカッションテーマ①「地域への浸透に向けた取組など」

岡山市より岡山芸術交流の取組から国際展概要やコンセプト、特徴、これまでの課題、そして、地域浸透に向けた具体的な取組などを紹介、その後、参加者からの質問や意見交換等が行われた。

2. ディスカッションテーマ②「運営組織の構築・関係者間のコミュニケーションなど」

香川県より瀬戸内国際芸術祭の取組から開催における背景及び経緯、地域や作品の特徴、運営に携わる様々な関係者との関係性について、また開催成果などを紹介、その後、参加者からの質問や意見交換等が行われた。

3. ディスカッションテーマ③「継続的な作品維持管理など」

宇部市よりUBEビエンナーレの取組から国際展概要や開催経緯、運営の仕組みと特徴、国際展後の市事業への展開、継続的な作品維持管理についての具体的な取組などを紹介、その後、参加者からの質問や意見交換等が行われた。

続いて、全ての参加者が本担当者ミーティング参加後の感想を述べ、最後に佐々木顧問が講評を行った。

【講評要旨】

創造都市政策の一つの中心的なテーマが、現代アートが持っている衝撃力であり、これを地域にぶつけると地域社会の中でいろいろな化学反応を起こる。それがこれまでアートと無関係だった人や経営者や教育界に大きなインパクト与える。この連鎖反応を政策として継続させていくことが大切である。

そして、継続すれば文化芸術が地域に与える影響について結果を出すことができ、地域を再生していく政策として屋台骨を支えているのがこの国際展だと考えている。

トリエンナーレ、ビエンナーレなどの国際展は、地域的であるとともに世界的な視野で取組むことが重要である。※各発表に対するコメントもいただきました。



